

第 28 回トワイライトセミナー

プロセス産業における SQDC 工程管理表を活用した安全管理活動の推進

開催日：2013 年 3 月 6 日 (水) 18:30~20:00

会場：キャンパス・イノベーションセンター (東京) 708 号室

講師：島田 行恭 氏

(独) 労働安全衛生総合研究所 化学安全研究グループ 上席研究員

多くの事業場では「安全第一」を掲げているが、日々の活動の多くは生産性向上、品質確保を目的としたものであり、安全管理のための活動は特別で手間暇の掛かるものとして、あまり積極的には行われていないのが現状である。一方、従来の QC 工程図による製造業務実施の中で安全に関して意識的に管理すべきポイントを加え、不可分である SQDC (Safety, Quality, Delivery, Cost) の統合的な観点による SQDC 工程管理表がある。ここではプロセス産業において SQDC 工程管理表を活用した安全管理活動の推進について講演があった。

講演では、「見える化」という言葉を用いながら、安全管理の PDCA (Plan, Do, Check, Action) のサイクルをどのように回すかという内容のお話がわかりやすくなされた。まず、安全管理における PDCA サイクルの課題、資源提供の重要性、マネジメントシステムの役割などについての解説を通して、「見える化がなぜ必要か？」というお話があった。その後、見える化の一手法である SQDC 工程管理表の作成方法やその利用方法についての説明がなされた。例えば、安全管理業務が煩雑にならないように、基本的には SQDC 工程管理表を 1 枚の紙にまとめるといった具体的な手法を聞くことができた。また、SQDC 工程管理表の導入事例の紹介もあり、導入先の上層部と現場の両方の意見を例示するなどして、多くの聴講者にとって SQDC 工程管理表の導入効果も把握しやすい内容であった。

講演の最後に、島田氏が安全管理活動の推進へのアドバイスとして「木を見よ、森を見よ。」と述べていたように、この講演は、プロセス産業における安全管理業務の細部と全体の管理を効率化するための SQDC 工程管理表の活用方法に触れたものであり、聴講者からの質問も多岐にわたり、大変盛況な講演会であった。(参加者 13 名)



島田 行恭(独) 労働安全衛生総合研究所 化学安全研究グループ 上席研究員